



今回は、第1405号・令和4年度第6号のあやまりでした。お詫びして訂正させていただきます。今回は第1406号・令和4年度第7号とさせていただきます。

スローガン「協力 ～あきらめずにやり切ろう～」

やり切って運動会を創り上げる

予行練習のまとめに、リレーをたとえにして、「やり切る」ということについてお話をしました。

リレーで最後に走る人をアンカーと言います。アンカーはチームで一番速い人がやります。カッコいいです。でも、つらい役でもあるのです。誰かが追い越されて走るのが嫌になったりするとスピードが落ちて遅れてしまいます。そんなことが積もり積もれば、最後のアンカーが遅れてゴールしてしまうことになるのです。アンカーはチームで一番速い人でした。みんなの憧れでもあり、もしも一人で走ったら一等賞をとれるくらい速い人達です。そのアンカーは、みなさん一人一人の頑張りを背負い、逆に、わずかな油断や遅れも背負わされてゴールするのです。

だから、一人一人がやり切ってバトンをつながなければなりません。また、アンカーは全力でつながったバトンだから、たとえ何位でも最後まで全力で走り切らなければなりません。

リレーをたとえにお話をしましたが、「やり切る」のはリレーではありません。競技をやり切ります。演技もやり切ります。そうやって、一人一人がやり切ることで、運動会ができていくのです。

練習を通して、そして、今日の予行練習で、運動会ができてきました。**あと一息、もう一押し**がんばりましょう。やり切って、みんな、運動会を創り上げることにしましょう。

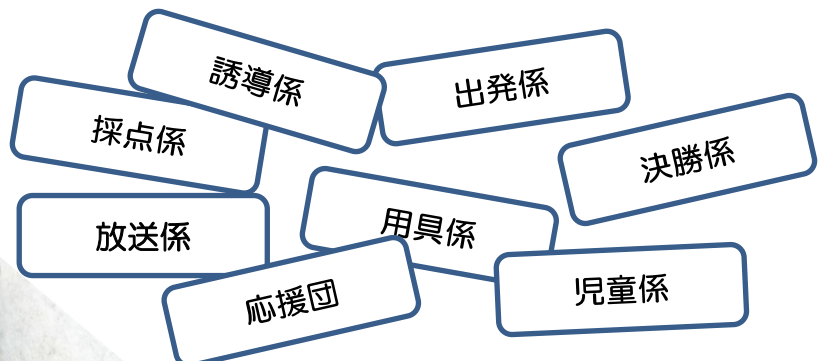
どこまで自分達でできるか

予行練習の終わりに、運動会全体を支える係が紹介されました。赤白の別を越えて、役割を果たすことで運動会を成功させます。

子ども達には「働く子」になってほしいと願っています。勝ち負けだけでなく、ご自分のおうちの子だけでなく、**みんなのために一生懸命働く子ども達、係に協力する周りの子ども達**の姿を是非ご覧いただきたいです。



責任重大な決勝審判もドキドキしながら行います。周りの子ども、係の言うことを聞いたり判定に潔く従ったりして協力してくれます。



高学年が競技している間、「自分達が応援団をやってやろう。」と話し合う4年生。

やり切る

「あと一息、もう一押し」

6年生だけの応援練習

予行練習が行なわれました。応援賞は赤組。前回の全体練習は白組の勝ちでしたから、これで“がつぷり四つ”に組んだ形です。予行練習が終わって反省の学年集会を終えた6年生、「明日の朝、6年生だけで応援練習をしてもいいですか。」と応援の先生に言いに来たそうです。最後の最後、「練習しないで

はいられない。」、「でも、ここまで来て他の学年の貴重な練習時間をもろうわけにも行かない。」、そこで、考えた“6年生だけの応援”のようです。



めあての進化

予行練習後に各教室で「ふりかえり」が行われました。

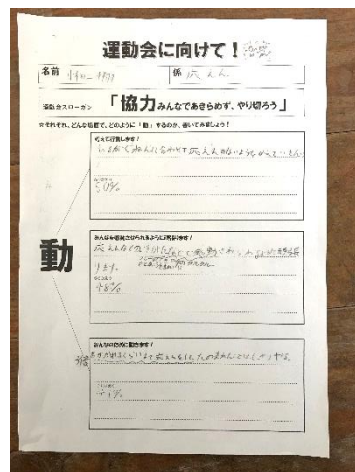
6年生のめあてカードには、「めあて」のほかにどれくらいがんばったかを振り返る欄もあります。

めあてに「**応援などの姿で見ている人に感動を与えられるようにがんばります。**」と書いた応援団・二千翔さんのカードには、予行練習後の「ふりかえり」の欄に、「**48%**」という厳しい点数がつけられ「**フーフーの手をクルクルするところをもっときれいにしたい**」というさらにながらがんばることが書いてありました。



3年生の教室には、その日のがんばりを集めてはってあります。運動会がおわったときにはカードがいっぱいになっていることでしょう。

はじめは、ぼんやりとしていためあても、練習を重ねるにつれ、課題やがんばりたいことがはっきりしてきます。めあてが進化しているようです。がんばることをしっかりと決めて本番に臨みます。



先生達もいろいろな対策を最後まで「もう一押し」

天気は大丈夫そうですが、暑さや通り雨を想定し、子ども達の陣地にテントを張る用意をしました。実際に張る必要が無くなって用意が無駄に終わるかもしれませんが念のための備えです。できることはしておこうという「最後までもう一押し」の準備です。

運動会恒例のファンファーレを残念ながら断念します。

ずっと、海の子ブラスの練習を休んでいます。今年度は、全楽器の楽譜を用意してみんなでファンファーレをやろうと張り切っていました。そんなブラスのメンバーの気持ちに申し分けなく思います。どこかで、披露の場をつくらなければいけないと考えています。

対策を行い、苦しい決定もし、それでもご理解をいただいてここまでできました。みんなの思いを集めて、いよいよ明日、運動会です。



各学級・学年で1つ1つの文字は、作られ、スローガンが出来上がりました。